

第3学年 総合 学習指導案

令和5年10月2日（月）5校時
東久留米市立第三小学校
3年2組 27名 指導者

【校内研究主題】

思考したことを豊かに表現する児童の育成 ～ICT機器の効果的な活用を通して～

1 単元名（単元全体の時間数）

東久留米市はなまる探検隊～我が街っく天国「東久留米」～（全28時間）

2 単元の目標

自分たちのまち「東久留米市」の地域の様子や自然環境、社会環境、歴史について自ら課題を立て、実際に見聞きしたり東久留米市で過ごす様々な人々から情報を集めたりしながら主体的・協働的に課題を追究する活動を通して、自分たちの暮らす地域のよさを発見し、学んだことを自分たちなりの方法で表現する。

3 単元の評価規準

A 知識・技能

①自分たちの住む町の様子や環境、歴史について、自分たちが知りたい情報を様々な方法で集める。

②情報を集めるための様々な方法を知り、実際に取り組むことを通して、その利点を理解する。

B 思考力・判断力・表現力

①地域の様子や自然環境、社会環境、歴史について目を向け、自分たちの地域のよさはどのようなところかを考える。

②集めた情報を目的に合わせて整理・分析して、分かりやすくまとめ、自分たちなりの方法で表現する。

③探究的に学習することを通して、自分たちの住む地域のよさについて深く考え、これからの「東久留米」に受け継いでいきたいものを考える。

C 主体的に学習に取り組む態度

①課題の解決に向けて、すすんで調べたり考えたりしようとしている。

②友達と関わり合いながら学習し、活動をする中で友達のよさを見つけ、互いに認め合おうとしている。

4 目指す児童像にせまるための手立て

分科会名	目指す児童像	つながりから学びを深め、
思考×方法（追及）		自分の考えをまとめていこうとする児童

「なんのために」、「誰に対して」、どのようなことをするのか。それらが明確になることで、児童は意欲的に事を成そうとし、本当にそれでよいかを心から吟味し、自分たちが望む、最大限の結果を得ようと邁進する。相手意識、目的意識を強く意識することこそ、児童の学ぶ意欲のエンジンを最大限引き出すための最高のガソリンとなる。第3分科会はそのように考え、ICTのもつ「時間・空間を超えることができる」という特性を効果的に授業の中で生かすことで、児童の意欲を引き出し、授業の濃度を高めていくことができると考えている、

そこで、本單元では、以下の手立てを行う。

1. 目的意識・相手意識の明確化

今回の学習では、いつ、どこで、だれに、どのような活動を行うのかを児童が明確に意識できるように心掛ける。大きな活動「学習発表会で」「全校児童、保護者、地域の人々に」「東久留米のよさを伝える」はもちろんのこと、1単位時間内での小さな活動においても、目的意識、相手意識を児童が明確にもてるようにする。

本時でいえば、アンケート調査の協力をお願いする目的や相手、アンケートをとる目的やアンケートに答えるであろう相手のことを具体的に想起しながら学習に取り組めるようにする。目的や相手が明確になることは、児童の思考を促す。相手に合わせて、言葉をより吟味しようとし、適切な方法を選んでいこうとする態度を育てることにもつながる。

2. 「Forms」の活用

東久留米のよいところについてデータを集めるためにアンケートを行う際、広くデータをとるため、そして、集計を迅速に行うため、「Forms」のアプリを活用する。インターネットを介して調査活動をすることで、直接相手と話したり、紙に記入してもらったりしなくても、他者に意見を聞いたり集めたりすることができることを体感できる。また、「人の手による手間を上手に減らすことができる」というICT機器の利点にも触れる機会となる。

ICT機器を使うことで、今まではなかなか集めることが難しかった範囲のデータも目を向けられるようになり、児童の思考の幅が広がることが期待できる。

3. 直接見える機会、一部始終を見届ける機会の創出

ICTの「時間、空間を超える」特性を利用することが身近になればなるほど、人と直接見える機会が減り、インターネットの便利さを十分に利用できる反面、ネットの向こう側にいるのは人である、という意識が希薄になりがちである。だからこそ、相手を目の前にして直接関わる機会はより重要性を増してくる。関わる相手と直接同じ場を共有することのできる機会を可能な限り設定し、活用していく。

また、ICT機器を活用し、インターネットを介して人々の意見を広く集めるという活動は、具体的にどのように進むのかがつかみにくい。依頼し、協力してもらい、データが集まり、その結果を活用する、という今回の活動の一連の流れを見届けることができれば、これから自分たちがしようとしていることをより深く理解することができると思う。

今回、大人が多く集まる機会を利用して、大人から直接助言をもらう経験や調査の一通りを見届ける機会をつくることは、今後の児童の活動の大きな示唆となる。

4. オンラインでの関わり

「Zoom」や「Teams」を利用したオンライン会議を活用することで、直接会うことはできなくても、相手と関わるができる。また、画面共有機能を使えば、制作した文書やプレゼンテーションも、その場で相手に見てもらえることができる。インターネットを介して短い時間でも直接話を聞くことのできる機会は、専門家から助言をもらったり、直接交流が難しい相手と関わったりする際に効果が期待できる。

5. ICT活用経験の蓄積

総合的な学習の時間が始まる3年生で、ICT機器を活用した学習を多く経験し、その使い方・活用の仕方に多く触れておくことは、これからの学習の可能性を大いに広げることとなる。今後、児童自らが「気付き」「考え」「自己決定していく」学習過程の中で、いずれ児童自身がICT機器を用いた手法を自ら選択していこうとする姿も期待できる。

5 単元の指導計画（全28時間）

	時間	○主な学習活動	・指導上の留意点◇評価規準（評価方法）
第0次	①	1学期に各クラスで調べた「自分たちの考える東久留米の『はなまる』なところ」について、学年全体で共有する時間をもつ。	
第1次	② ③ ⑧	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期の学習の見通しをもち、おおまかな学習計画を立てる。 ○学級での「東久留米はなまるベスト20」を考える。 ○各クラスのベスト20の内容を比較して課題を見つけ、広く意見を集める方法を考える。 ○他の学年や保護者から広く意見を集め、学年での「東久留米はなまるベスト20」を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の構想を学年全体で共有する。 ・発表会のもち方について児童にイメージをもたせ、児童から考えを集める。 ・意見が集中したものと少数のものに着目し、学級間の意見の違いから、さらに広く意見を集める必要性に気付かせる。 ・「forms」のQRコード機能を用いて、意見をできるだけ多くの人から集める。 ◇「forms」の利点を生かして情報を集め、東久留米のよさについてすすんで考える。【知理①②、思判表①、学び方①】（授業観察、発言、ワークシート）
第2次	⑨ ⑩ ⑭	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会の計画と決定したベスト20に沿って役割分担やグループ分けを行い、それぞれの課題を設定する。 ○グループごとに、詳しい内容について話し合い、調査計画を立てる。 ○グループごとに必要な情報をさまざまな方法で収集し、発表会に向けて発表資料に分かりやすくまとめる。 ○まとめた発表資料を互いに共有し、よいところや気付いたことを伝え合う。 ○よりよい内容で発表するために、いろいろな人に発表を見てもらい、アドバイスをもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合司会や演技役など、決定した発表会の内容に合わせて役割分担を行う。 ・児童一人ひとりが追究する課題を設定し、1位～10位は独立してグループをつくる。学習量のバランスをとるため、司会グループを選んだ児童には11位～20位の課題を追究させるようにする。 ・発表会に向けて。発表資料はプレゼンテーションソフトでまとめる。 ・情報収集では、関連する地域の方とつながるために、これまでの方法に加え、「Teams」の会議機能や「Zoom」を用いたオンライン会議も行えるようにする。 ・地域の人々とICTを用いてつながり、作成した発表資料に対して、画面共有やデータ添付等で直接アドバイスをもらう経験を積ませておく。
第3次	⑰ ⑱ ⑳	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会に向けて、全体で学習の成果を共有し、互いのよいところや気付いたことを伝えあう。 ○発表会場で準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会当日、可能であれば、お世話になった地域の方に来場してもらったり、視聴してもらったりできるように機会をつくる。
<h2 style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;">学習発表会</h2>			
		○学習発表会を振り返り、自分の学びをまとめる。	

行ったり来たりする。
 必要に応じて、

6 本時（6時間目／全28時間）

(1) 目標 アンケートを試す活動を通して、自分たちの調査活動をよりよいものにする。

(2) 展開

<p>導入 (2分)</p>	<p>○主な学習活動 ・予想される児童の反応</p> <p><u>○本時のめあてを確認する。</u></p> <p>「はなまるアンケート」のできをたしかめ、調査活動の最終確認をしよう。</p> <p><u>○本時の流れを知る。</u></p> <p><児童に示す言葉> きょうのけいかく ①「アンケートのおねがい」のたしかめ ②「アンケートのながれ」のたしかめ</p>	<p>◇留意点 ◆評価【評価規準】(評価方法)</p> <p>◇活動内容に合わせて、机の配置を工夫しておく。</p> <p>◇「アンケート依頼の仕方の最終確認」と、大人が集まる機会を生かした、「アンケートの依頼から実施、意見集約までの流れのシミュレート」し、調査の仕方に不備がないかを確認することが本時のねらいであることを周知する。</p>
<p>展開① (15分)</p>	<p><u>○調査への協力を、各学級に依頼する際の伝え方について確かめる。</u></p> <p>①担当グループに分かれて発表する。 ②動画を見直して、自己評価を行う。 ③周りの子から評価(感想)をもらう。 ④大人から、アドバイスをもらう。</p> <p><たしかめの観点> ①お願いの熱意 ②声の聞き取りやすさ ③分かりやすさ ④ていねいさ</p>	<p>◇実際に行う活動であることを強調することで、児童が相手意識を明確に意識させるようにする。</p> <p>◇<u>評価の観点を明確にしておく。</u></p> <p>◇下学年・上学年担当に分かれる。</p> <p>ICT 動画撮影</p> <p>◇グループごとにリハーサルを撮影し、自己評価に活用する。動画にすることで、活動の吟味に効果的であることを経験できるようにする。</p>
<p>展開② (20分)</p>	<p><u>○アンケートを実際に行って、調査活動が想定通りに進むかどうかを確かめる。</u></p> <p>①全体を代表する子が実際に先生に依頼。 ②その場で直接、先生方にアンケート。 ③調査結果を大型テレビで確かめる。 ④得られた結果について意見を述べ合う。</p> <p><たしかめの観点> ①ひつような数値があつめられているか。 ②ひつような意見があつめられているか。</p> <p>⑤校長先生やICTエキスパート等から、評価やアドバイスを直接もらう。</p>	<p>ICT 「Forms」によるアンケート調査</p> <p>◇ICT を用いたアンケートの効果を体験し、利点を理解できるようにする。</p> <p>◇ここで直接依頼する活動が展開①を受けて改善した活動となる。「何度も改善しながら本番に臨む」という本単元のねらいに即していることを示唆する。</p> <p>◇相手が直接見えない活動を行う上で、「直接見る機会をもてることには大変意義がある」ことを確かめておく。</p> <p>◇<u>意見を述べる観点を明確にしておく。</u></p> <p>◇大型モニターで結果を大きく移す。</p> <p>◇展開②を通して、「大人が来る機会を生かして、普段できないことを可能にする」視点を児童にもたせる。</p>
<p>いかす (8分)</p>	<p><u>○学習を振り返る。</u></p> <p><ふりかえりの観点> ①今日の学習で、一番の学びは何か。 ②次の学習でがんばりたいことは何か。 ③タブレットの使い方気付いたことは何か。</p>	<p>◇<u>振り返りの観点を明確にしておく。</u></p> <p>◇振り返りを書き終えた児童から、それぞれの方法で共有させるようにする。</p> <p>◆アンケートのシミュレートを通して、ICTの利点を理解し、調査活動やその後の活動に意欲をみせている。【知・理】 【態度】(ワークシート、発言)</p>

